

## Q&A 第7章の中から～第五の戒め

**質問 63** 第五の戒めは、何ですか。

**答え I** 第五の戒めは、「あなたの父と母を敬え。そうすればあなたは、あなたの神、主が与えられる土地に長く生きることができる」です。

**質問 64** 第五の戒めでは、何が求められていますか。

**答え I** 第五の戒めは、目上の人、見下の人、あるいは対等の人として、さまざまな立場と関係において、すべての人に伴う名誉を守り、「その人に対する」義務を果たすことを求めています。

### 1. 「あなたの父母を敬え」と仰せである第五の戒めで、「父母」はだれを意味しますか。

第五の戒めでの「父母」は、私たちの母と父は勿論のこと、年齢にあつて私たちより年長者を含めていて、神が立てられた機関である家庭、教会、市民政府で権威ある地位にいる人々を意味します。家庭での父母は子供を教え、彼らが神に義務を果たすよう指導する立場にいるように、神が権威を与えました。神は教会を秩序あるようにさせるために、権威ある者たちを立てて真理を保たせ、聖さを維持するようになされました。市民政府も、やはり、神の公義を施行するために神から権威をあずかりました。第五の戒めは、神が権威を与えた者たちに従順し、敬意を示しなさいということです。

## 2. 「父母を敬いなさい」という命令において、求められるのは何ですか。

敬うというのは、内的に尊敬の心を持つことであり、外的には体で尊敬する態度を持つことであり（ロマ 13:10）、彼らに従順することです（ヘブル 13:7）。権威者に従順しなさいという法則は神の律法であり、それゆえ、神より人間に従順することはできないのです（使徒 4:19）。従順すべき権威者は、神が立てた立場にいる者たちです（I テモテ 5:1-2）。神は、ある者が金持ちだからその人から従順しなさいとは仰せられなかったのです。神がほかの人の益のために立てた権威者たちに、従順しなさいと求められるのです（I テモテ 6:17-18）。

## 3. 私たちの父母を、どのように敬うべきでしょうか。

父母の義務は、神のために子どもたちを訓戒し（箴 22:6）、神のみことばを教え、知識があるように、まことの信仰告白があるように養育するのです（申 6:7）。父母は子どもたちの前で、神のみことばを守る見本を見せなければなりません（詩 101:2-3）。父母は子供たちの過ちについて矯正してあげて（箴 13:24）、神が、子どもたちを祝福してくださるように祈るべきです（創 48:15-16）。このような父母の役割と機能のゆえに、神は父母に権威をお与えになりました。従って、子どもたちは自分の父母を愛し（創 46:29）、尊敬し（レビ記 19:3；マラキ 1:6）、父母の訓戒に聞き従い（箴 4:1）、父母の合法的命令に従うべきです（エペソ 6:1）、父母の物質的不足について、供給してあげなければなりません（創 47:12）。特に、年老いた父母に物質的な供給をしなければなりません（ルツ 4:15）。

## 4. 市民政府の権威者たちを、どのように敬うべきでしょうか。

市民政府の権威ある立場にいる者たちは、善なる法を立て（II 列王 18:4）その法を公平に施行しなければなりません（ロマ 13:3-4）。また、市民たちが自由に信仰生活ができるように、彼らを保護してあげなければなりません（I ペテ

ロ 2:14)。そして、権威者は、教会を安全にしてあげなければなりません（イザヤ 49:23）。このような市民政府の権威者について、市民は、その権威が神から来ていることを認めて、尊敬するようにし（Ⅱサムエル 9:6）、彼らの法に服従すべきです（伝道書 8:2）。また、市民として税金を払い（ロマ 13:7）、彼らのために祈らなければなりません（Ⅰテモテ 2:1-2）。そして、彼らの権威を保護してあげなければなりません（Ⅰサムエル 26:15-16）。

## 5. 教会で、働き人たちを、どのように敬うべきでしょうか。

教会でみことばの働き人の義務は、一生懸命に研究し（Ⅰテモテ 4:15）、福音を誠実に叫ぶことです（Ⅱテモテ 4:2）。福音の働き人は、余すところなく神のすべてのみことばを教えなければならず（使徒 20:27）、模範的な生活によって、自分が教える教理が正しいことを証ししなければなりません（Ⅰテモテ 4:12）。福音の働き人は、霊魂を省み（ヘブル 13:17）、彼らのために祈り（ロマ 1:9）、すべての義務を果たすべきです（Ⅰペテロ 5:2）。従って、信者は、福音の働き人の労について、愛の中で彼らを尊敬し（Ⅰテサロニケ 5:13）、彼らのために祈り（ロマ 15:30）、彼らの働きのために生活の心配がないように物質によって支え（ガラテヤ 6:6）、彼らの教えに一所懸命に参加すべきです（ヘブル 10:25）。一方で、福音の働き人が教えることに対して攻撃と不当な非難をする者たちから、彼らを保護しなければなりません（Ⅰテモテ 5:19）。

## 6. 第五の戒めで、夫と妻の関係において つけ加えられた義務は何ですか。

夫と妻は互いに愛さなければならず（エペソ 5:28）、自分たちの結婚の契約に対して真実でなければなりません（ロマ 5:28）。夫と妻は、両方とも貞操を守り、寝床を汚してはなりません。夫と妻は霊的増進のために労苦をし、この世で必要なものを供給しなければなりません（Ⅰテモテ 5:8）。

## 7. 第五の戒めで、若者たちに つけ加えられた義務は何ですか。

若者たちは、年長いた者たちを尊敬し（レビ記 19:23）、彼らの前で謙遜であるべきです。若者たちは、彼らの正しい生き方を見習うべきです（箴 16:31）。教会での若者たちは、長老たちを尊敬し、彼らの教えを受け入れ、彼らの模範的な生活を見習うべきです。

**質問 65** 第五の戒めでは、何が禁じられていますか。

**答え I** 第五の戒めは、さまざまな立場と関係において、すべての人に伴っている名誉と「その人に対する」義務を無視したり、あるいは、それらに反する行いを禁じています。

### 1. 第五の戒めでは、低い立場にいる者が 高い立場にいる者に対して 禁じていることは何ですか。

低い立場にいる者が、高い立場にいる者を妬んだり軽蔑したり、彼らの立場について反逆するのを禁じています。また、高い立場にいる者たちの合法的な訓戒と命令と訂正について拒否し、聞き入れないことを禁じています。子どもが父母に聞き従わず、反抗的で、敬わないことも禁じています。しもべの場合は、怠惰を禁じています。みことばの働き人と信者との関係においては、信者がみことばの働き人を尊敬せず、彼について悪く言ったり、働き人のために祈らないのを禁じています。権威者と民との関係においては、民が自分に課せられる税金を払わなかったり、権威者を尊敬しないのも禁じています。

### 2. 第五の戒めでは、高い立場にいる者について 禁じているのは何ですか。

高い立場にいる者が、低い立場にいる者に不法的なことを命令したり、彼らの能力以外のことを要求したり、また、彼らを蔑視し、失望させることを禁じています。父母と子どもとの関係において、父母が子どもを見回らないことと、訓練させないことも禁じています。主人としもべとの関係において、主人がしもべに賃金を払わないのを禁じていて、みことばの働き人と信者との関係において、みことばの働き人が信者の霊的状态について無知だったり、彼を霊的に省みることに注意しないことも禁じています。民と権威者との間では、権威者が不公平に事を行い、悪人を処罰しないのも禁じています。

### 3. モーセの法では、子どもが父母に悪を行うことについて、どのように定められていますか。

自分の父と母に暴力を振るう者は殺しなさいと、命じています（出 21:15）。また、自分の父と母を呪う者も殺しなさいと命じています（出 21:17）。このような犯罪について、強力な裁きが求められる理由は、罪が深刻で重いからです。それは、自然法の光に逆らうことで、感謝もしない反逆的な罪として、悪徳な不従順の罪です。新約でも、私たちの主は、このような罪について、変わらない裁きを仰せられています（マタイ 15:4）。

### 4. 第五の戒めで、夫と妻の関係において 禁じているのは何ですか。

夫と妻の関係において、夫が家族を顧みないのと、妻を愛せず慰めないのを禁じています。妻が夫を尊敬しなかったり、夫より高くされようとするのも禁じています。

**質問 66** 第五の戒めに、つけ加えられた論理は、何ですか。

**答え I** 第五の戒めに、つけ加えられた論理は、この戒めを守るすべての人々に対する長寿と繁栄（それが、神の栄光と、彼ら自身の益になる限り）の約束です。

### 1. 第五の戒めに、つけ加えられた約束は、何ですか。

この戒めを守るすべての者に、長寿と繁栄が約束されています。それは、敬虔がすべての益となることを見せてくださっています（I テモテ 4:8）。第五の戒めにつけ加えられた約束に、長寿と繁栄が一緒にあるのは、ただ長寿だけがあるなら、とても負担になることだからです（黙 4:6）。それゆえ、この世での一時的なことですが、繁栄が伴うことを約束されています。このように、第五の戒めに約束がつけ加えられた理由は、この戒めを守る者たちを勇気づけるためです。

### 2. 第二の戒めでも、祝福の約束がついていましたが、第五の戒めが「約束のついている第一の戒め」と呼ばれる理由は、何ですか。

第二の戒めに、「わたしを愛し、わたしの命令を守る者には、恵みを千代にまで施すからである」（出 20:6）という約束がついています。ところが、第五の戒めが「約束のついている第一の戒め」と呼ばれる（エペソ 6:2）理由は、二枚目の石板の第一戒だからです。第二の戒めにある約束は、神が慈悲を施してくださるということですが、神を愛し、神の戒めを守るすべての者に適用されるものとして、第二の戒めを守る者に与えられた特定な約束ではなく、すべての戒めを守る者に与えられた一般的な約束です。しかし、第五の戒めの約束は、特別に、第五の戒めを守る者に適用できるから、「約束のついている第一の戒め」と呼ぶのです。

### 3. 第五の戒めについている約束が、特別な理由は、何ですか。

神が第五の戒めの遵守を強力に求められる理由は、ご自分が父母を合法的権威者として立てられたことを見せるためなのです（申 21:18-22）。家庭で父母を敬わない者は、彼らが神に仕え、礼拝すると言っても、それは、偽りに過ぎないのです。先ず目に見える権威の前に従順するのを、神は求めておられます。そ

れで、神は、父母を敬う者たちに約束をなさり、それは、子どもたちに義務を果たすように激励をなさるのです（箴 4:10）。

**4. 第五の戒めに、つけ加えられた長寿の約束は 絶対的なものですか。  
そうでなければ 制限的なものですか。**

長寿と繁栄は制限的な約束です。制限的という理由は、このような幸いは、神の栄光と人々の益のための範囲で与えられるものだからです（箴 30:8）。神が人々に、長寿と繁栄の祝福を与えたのだが、彼らの敬虔に益とならず、神の栄光もふさぐようなら、神はその祝福を取り去ってしまいます。最も、長寿と繁栄の祝福は、この地において慰めに該当されるものなので、永遠の慰めと祝福が、より重要です（ルカ 16:25）。